

### 1. はじめに

近年、日本社会を取り巻く環境が厳しくなっている中、自治体の持続的な発展を支える機能のひとつとして「大学の地域貢献」があげられ、将来を見据えたまちづくりに大きな役割を果たすことが期待されている。

大学の地域貢献とは、地域が抱える様々な課題に対し、地域の将来像や夢の実現に向けて、大学の持つ固有の「知」を活かし、地域と連携、協力し合いながら、その成果を広く地域へ還元するものと言われている。

そのことにより、まちのグレードの向上や賑わい、シンボルの創出などが可能となるものと考えている。

このような中、本市JR高槻駅北東地区に「安全」「防災」「危機管理」を取り扱う学部、研究科を新たに開設するなどの関西大学新キャンパス構想が発表された。本報告書は、当該構想にかかる地域貢献の今後の方向性と課題について、関西大学支援策検討専門部会としてまとめたものである。

### 2. 背景

人口減少や少子高齢化社会が現実の問題となっている状況にあつて、なお構造改革や規制緩和など、社会の仕組みは大きく変わってきている。そこで、自立した地域を実現していくためには、様々な課題が山積している。

これらの課題解決の1つとして、地域は、地域資源を最大限に活用することが考えられ、知的財産としての大学との連携は、その効果が大きいと思われる。

一方、大学においても、「全入時代」が到来する中、これまでの「研究」、「教育」という機能に加え、近年、3つ目の機能として地域に根ざした、いわゆる「地域貢献」が重要となっている。

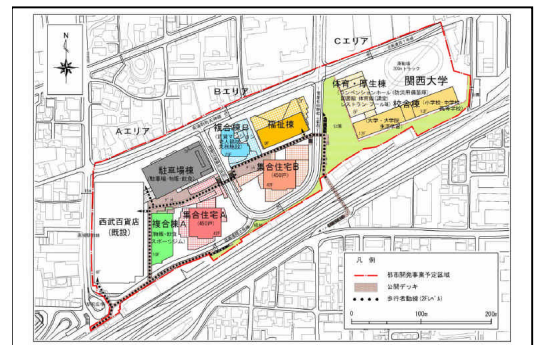
地域と大学の両輪が、うまくかみ合いながら、共に発展するという目標を実現するために、地域と大学の連携、いわゆる「地・学連携」を推進することは重要であり、「地域力」の向上に繋がるものと考えられる。

今後、より一層、連携機能を高めるためには、知の拠点づくりが必要と考えられる。

地・学連携の様々な取組を通して、大学は地域との調和ある共存に貢献し、大学が立地する本市には地域力、つまり「高槻力」の向上が図れるものと考えられる。

### 3. 関西大学新キャンパス構想 計画概要

- |          |                                                                         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| (1)敷地面積  | 約 17,600 m <sup>2</sup>                                                 |
| (2)延べ面積  | 約 53,200 m <sup>2</sup>                                                 |
| (3)構造・階数 | (主要建物) 鉄骨鉄筋コンクリート造、<br>地下1階・地上12階                                       |
| (4)施設用途  | 小学校、中学校、高等学校、大学、<br>大学院、生涯学習、体育館、図書館、<br>コンベンションホール、レストラン、<br>防災用備蓄倉庫など |
| (5)学校規模  | 児童・生徒・学生数 合計約 2,300 人                                                   |
| (6)事業行程  | 平成20年度工事着手、<br>平成22年4月開校予定                                              |



図－1

### 4. 地域貢献の方向性と課題

広義での「安全」と「安心」は、(株)日本統計センターによると、住みたいまち、住み続けたいまちを実現するためのキーワードとしている。その「安全」とは、「地域防災(生命・財産などを守る)」などを指し、また、「安心」については、「教育(多世代にわたる生涯学習)」をあげている。

このように本市の将来に向けたまちづくりを考えた時に、地域防災の向上や教育力を高めるといった地域のニーズと専門性を有した知的財産である大学のシーズとの地・学連携は、非常に重要である。

関西大学の進出は、まちの活性化や市民満足度の高い、高槻市の実現へ結びつくものと考えている。

#### 4-1. 地域防災

地域防災（防災・災害時）の連携により、将来にわたって、安全なまちづくりに寄与する。

##### 4-1-1. 防災の連携

- ①（仮称）安全ミュージアムの設置
- ②備蓄倉庫の設置
- ③防災力向上への各種取組

##### 4-1-2. 災害時の連携

- ①（仮称）危機管理センターの設置
- ②グラウンドの開放
- ③体育館の開放
- ④プールの水の利活用

#### 4-2. 施設開放

大学施設の市民開放により、生涯にわたり一層、市民生活を豊かにする。

- ①大学図書館の開放
- ②コンベンションホールの設置
- ③生涯学習のフロア設置
- ④グラウンドの開放
- ⑤体育館の開放
- ⑥プールの開放

#### 4-3. 地域交流

大学の知的財産を活用し、市民生活や行政水準の向上を図る。

- ①人の交流
- ②共同研究および  
地域研究課題の公募制度
- ③生涯学習機能の充実
- ④インキュベーション機能の充実
- ⑤知の拠点確保
- ⑥イベントなど行事の共催

#### 4-4. 高大連携

大学と高校などとの連携により、次代を担う子供たちの社会への関心や将来の方向性を早い段階から養い、一層の自主・自立をうながす。

- ①大学教授による市内高校への出前講座
- ②高校生によるゼミ参加研修
- ③サークル交流
- ④小・中学生へのオープンキャンパス

### 5. 関西大学における現状

関西大学は、社会連携の基本方針を平成17年4月に定め、その実施に取り組んでいる。

### 6. まとめ

本報告書は、「関西大学新キャンパス構想にかかる地域貢献の今後の方向性と課題」についての研究・検討を行った結果をまとめたものである。本文でも触れたが、地域における多様化した様々な課題を解決していくためには、自主・自立を目指す「地域」と研究・教育・地域貢献を目指す「大学」、この双方が、「知」を媒体として、共に発展し、地域全体の活力が向上する、「地・学連携」がなければ達成することは出来ないと考える。

今回、関西大学における地域貢献として、駅前という立地条件を活かした①「地域防災（防災・災害時）」に加え、②「施設開放」、③「地域交流」、④「高大連携」を掲げている。これらの地域貢献は大学のみではなく、地域も最大限の連携・協力をすることが必要不可欠であり、この地域貢献を推し進めるためには、行政からの財政的支援も必要であると考えている。このことによって、50年、100年先の将来を見据えた、「活力のあるまちづくり」、「市民満足度の高いまちづくり」が実現できるものと確信している（図-2）。

なお、本文4. 地域貢献における方向性に記載した各項目は「関西大学新キャンパス構想に関する調整会議」において合意されたものであるが、今後、さらに具体的な詳細検討を行う必要がある。

50年、100年先の将来を見据えた「活力のあるまちづくり」「市民満足度の高いまちづくり」の実現

高機力の向上

地・学連携

地域防災

地域防災（防災・災害時）の連携により、将来にわたって、安全なまちづくりに寄与する。

<防災の連携>

- ①（仮称）安全ミュージアムの設置
- ②備蓄倉庫の設置
- ③防災力向上への各種取組

<災害時の連携>

- ①（仮称）危機管理センターの設置
- ②グラウンドの開放
- ③体育館の開放
- ④プールの水の利活用

地域交流

大学の知的財産を活用し、市民生活や行政水準の向上を図る。

- ①人の交流
- ②共同研究および地域研究課題の公募制度
- ③生涯学習機能の充実
- ④インキュベーション機能の充実
- ⑤知の拠点確保
- ⑥イベントなど行事の共催

施設開放

大学施設の市民開放により、生涯にわたる一層、市民生活を豊かにする。

- ①大学図書館の開放
- ②コンベンションホールの設置
- ③生涯学習のフロア一設置
- ④グラウンドの開放
- ⑤体育館の開放
- ⑥プールの開放

高大連携

大学と高校などとの連携により、次代を担う子供たちの社会への関心や将来の方向性を早い段階から養い、一層の自主・自立をうながす。

- ①大学教授による市内高校への出前講座
- ②高校生によるゼミ参加研修
- ③サークル交流
- ④小・中学生へのオープンキャンパス

<知の拠点>

研究・教育・地域貢献を目指す「大学」（関西大学）

自主・自立を目指す「地域」（高槻市）

図-2